頭頸部領域（唾液腺含む）の癌における癌関連分子の研究

【はじめに】

頭頸部領域（唾液腺含む）の癌は全臓器悪性腫瘍の 5%程度と少ないですが、発生部位は鼻・副鼻腔、上咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、口腔、唾液腺と多彩であり、部位ごとに組織像・発癌の背景・進展の原因・治療法・予後が異なることが知られています。また、同じ部位より発生した癌であっても組織像は多彩であり、その治療効果や予後が大きく異なることも知られています。そして、Quality of life（生活の質)に直接関係する嚥下機能や発語機能をなるべく温存し、治療の奏功率を高い水準で維持するためにも、癌関連分子の究明と分子標的治療の導入が必要であると考えられます。

本研究では、癌がもっている癌関連分子の種類を明らかにし、それらがどのような働きをしているかを調べることで、治療に結びつけることを目標としています。

【対象】

1980 年 1 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までに九州大学病院、九州がんセンターと浜の町病院に登録された頭頸部領域（唾液腺含む）の腫瘍、約 1500 症例を対象として研究を行います。患者さんが対象者となることを希望しない場合は、対象となる症例から除外して研究を行います。

【研究内容】

本研究は、すでに採取された病理組織を研究対象とする後ろ向き研究で、まずは当教室に登録された組織を、最新の WHO などにより定められた、現行の国際的な基準の下で再診断します。そして、病理組織を免疫化学染色や in-situ hybridization、DNA 配列の解析を行い、癌関連分子の異常を調べます。発生部位や組織像、癌関連分子の発現と臨床的な情報を統計学的に解析し、有用であろう分子標的治療を推測します。

【個人情報の管理について】

本研究の対象症例は、氏名やカルテ番号等の個人が識別できるような情報は削除され、固有の登録番号で管理されます。研究の結果などの公表に当たっても、個人が識別できるような情報は一切公表されることはありませんので、個人情報は完全に保護されます。

【データの 2 次利用】

本研究で得られたデータを別の研究に 2 次利用する可能性がありますが、その場合は改めてその研究計画を倫理審査委員会に提出し、審議を受け承認を受けた上で利用します。

【研究機関】

研究を行う期間は承認日より平成 31 年 3 月 31 日までです。

【医学上の貢献】

この研究により頭頸部領域（唾液腺含む）の癌に関与する癌関連分子が明らかになり、新規治療開発への手掛かりとなる可能性があります。

【研究機関】

研究責任者：　九州大学大学院医学研究院　形態機能病理　教授　小田義直
研究分担者：　九州大学病院　病理診断科　准教授　山元英崇
　　九州大学大学院　医学系学府　大学院生：　西嶋利光
共同研究者：　九州がんセンター　病理診断科　医長　田口健一
　　九州がんセンター　頭頸科　部長　益田宗幸
　　浜の町病院　病理診断科　部長　本下潤一
　　浜の町病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　部長　白土 ` 秀樹
　　浜の町病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　医師　中野貴史

【連絡先】

〒 812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
℡ 092-642-6067
九州大学大学院　医学系学府　大学院生：　西嶋利光